

SC
とは??

高齢になっても地域で暮らし続けるためには、地域に「医療」と「介護」、そして「生活支援・介護予防」の体制が必要だと考えられています。

そのうちの「生活支援・介護予防」の仕組みづくりを住民と一緒に進める役割を担うのが、SC(生活支援コーディネーター)です。(※生活支援コーディネーターは地域支え合い推進員とも言います)



木村 静華さん、戸澤 雅子さん

仙北市包括支援センター
第1層生活支援コーディネーター

活動範囲 仙北市内全域

活動内容 社会資源の把握・発信、集いの場情報の把握と発信、地域の支え合い講座、フォローアップ研修の開催等

木村(写真上)はSC4年目、戸澤(写真下)は3年目です。



広げよう つなげよう 地域支え合い♪

これまでの成果

- 仙北市内の困りごとに対応できる事業所をまとめた、社会資源リストの作成。(下図左)簡易版は市内の各市民センター、出張所、郵便局、銀行、JA、スーパー、温泉施設など市内各所に配架してもらっている。毎年更新している。全体版は市Webサイトで閲覧できるようにしている。
- 集いの場の情報を関係者向けにまとめた冊子を作成し、関係する課やケアマネに配付した。
- 地域の社会資源について伝える広報を作り、年3回発行している。(下図右)

課題

地域の集いの場に参加していない方へのアプローチ。市内各地区(合併前の旧町)の地域差を踏まえた関わり。

今後取り組んでいきたいこと

これまで包括支援センターにおいて、「在宅医療介護連携推進事業」「生活支援体制整備事業」「認知症施策推進事業」「地域ケア会議推進事業」を実施し、地域の課題を解決していくため、今年度から生き行きさぼ〜と事業(通所型サービスB)、おでかけおたすけ隊(訪問型サービスD)を開始した。ニーズとのマッチングに繋げていき展開していきたい。



社会資源リスト『仙北市 生活に関するおたすけガイド(簡易版)』

『仙北市支え合い通信』令和5年度に発行した3号。どれも地域の情報がぎっしり!

お二人へインタビュー

—木村さんが4年目、戸澤さんが3年目なのでですね。

木：そうですね。ビビッときて応募したのですが、それまでは全く畑違いの仕事をしていたので、最初は本当に何もわからなかったです。

戸：私は包括のことや体制整備事業のことは知っていましたが、SCCのことは知らなくて、何をすればいいの？と思ってました。

—仙北市の2層の皆さんには以前登場していたので、今日は1層SCCとしての活動内容を詳しく教えてください。

戸：作っているものを見てもらうと思うって、持ってきました。

—『生活に関するおたすけガイド(簡易版)』これは、社会資源リストですね。

—買い物配達、除雪：空き家の除雪や障子の張替え、院内介助まで！市内のたかさの資源が載っています。

木：色々な人に「便利だ」と言ってもらえて嬉しいな、と。

戸：木村が**毎年、情報を更新**して、自分の足で配って回ってくれていてるんです。

木：『おたすけガイド』と一緒に置いてもらっている『支え合い通

信』は、年3回発行しているSCCの広報です。戸澤がこういうパソコンの作業が得意なので。

—お二人の息がぴったり。

木：楽しいですよ。2年目から二人になって、話し合いながら進められるようになったら、もっと楽しくなりましたね。

—『まずいぐべ！ガイドブック』は、通いの場、集いの場の情報ですね。活動内容の詳細や料金も書かれているんですね。

戸：個人情報がたくさん入っているので一般にはお渡ししていません、関係者用です。

SCCとして何をすればいいのかわからない中で、そもそも自分たちがどこへ行けるのか、自分たちの資料として作ろうと思ったんです。所内で相談して関係者用にするようになりました。

木：やっぱり、**地域に入っていく最初の一步が大変**で、でも、この冊子を作ったのをきっかけに、**代表の人とやりとりできる**ようになったので、電話して「参加させて」と言えるようになりました。

戸：いざ行っても「おめだぢ誰？何してけるのよ？」ってなりませうけど、それでもできる限りリスキュー調整して、通いの場、集いの場に顔を出すようにしてきて

：最近やっと「よく来たな」「次はいつ来る」って言ってもらえるようになったかな。

木：自分たちのことを知ってもらうのに時間はかかります。私たちはいつも、「**地域の見守り助け合い隊です**」って言ってます。

戸：「様子見に来た」と言っていると、**地域の人に顔を覚えてもらわないと、ニーズを聞くことができない**。足運ぶことでも話をして、

関係性になって初めて相談やニーズを聞くことができ、つながられる。まだ数は少ないですが、最近ようやくそういうケースも出てきました。

—広報『支え合い通信』では、地域の〈お宝〉の紹介もありますね。

戸：**地域を歩いていたら、地域で頑張っている〈お宝〉みたいな人達がいる**ことを知りました。その活動を紹介したくて「支え合い通信の特別版」を作りました。

木：歩かないと見つけれられない。「次の号では誰を取材しよう？」と地域を歩きながら考えます。

—試行錯誤しながら手探りで進めてきたんですね。課題について詳しくお聞きしてもいいですか？

戸：通いの場、集いの場を回って

て思うのが、**参加している人は、複数の通いの場、集いの場に参加**して、違う場所で「また会ったな」なんてこともあります。が、**出てこない人は全く出ていない**ということ。

あとは、同じ市内でも地域性があって、3地区の個性があること。同じ事業をするにも、それぞれの意見があるし、地区によって住民同士の関係性も違います。

それから、これまで各事業から吸い上げてきた地域課題をもとに通所型サービスBと訪問型サービスDの事業をスタートさせました。

木：私たちSCCも関わらせてもらっているけれど…。

戸：なかなかサービスDにつなげられず…。難しいです。

それと、2層SCCとは年6回情報交換会をしていて、第2層協議体からの課題を第1層協議体で揉んで様々な意見や提案はするものの、形(実現)にいたらない…。

木：うまく流れを作れたらいいなと思いますね。



木村さん、戸澤さん、とても楽しいトークありがとうございました！